

教育のスタートライン

今年で開園10周年を迎えた“こども園ひがしどおり”は、東通村の掲げる【保幼小中一貫教育】の始まりを担う、重要な役割を果たしています。



0～2歳児、3歳児、4歳児、5歳児と棟分けされており、桜沢・坂崎保育メソッドを基にして、年代に合わせた教育が行われている。色々な事に興味津々の園児たち。真剣に勉強する5歳児、制作活動をする4歳児、制作やごっこ遊びをする3歳児、手遊び・体操・お歌を楽しむ0～2歳児。公開保育にも取り組み、保護者と共に成長を感じられる。

平成24年4月、東通村に幼保連携型こども園“こども園ひがしどおり”が誕生しました。

坂崎隆浩園長は、当時を振り返って「平成20年に村から、園を立ち上げるために力を貸して欲しいと依頼されたが、正直、村に知っている人も居なかったし、建物の設計や教育内容も全てですからね。少し驚きはありました」と話してくれました。

坂崎園長は鶴田町で、両親が経営していた園に従事したり、建設業を経営して





①2歳児“サークル学習（グーチョキパーでなに作ろう）”の様子 ②3歳児“ごっこ遊び”をする様子
③4歳児“制作活動”をする様子 ④5歳児“ドリルを使用して学ぶ”様子

いた経験もあり、また、保育者養成の大学教授でもあり、あまり不安は無かったそうです。無事に開園できた際は、入園して来てくれた子どもたちを見て、とても嬉しかったことを話してくれました。

「0歳から教育は始まるんです」

中西久美子副園長は「子どもたちの成長にはいつも驚かされます。集団行動する中で、沢山の刺激を受けているのかな。歩けるようになる、出来る事が一つでも増えるというのは嬉しいし、保育教諭として一番の喜びです」と話してくれました。

また、こども園の行事の中でも特に印象的なのが“音楽発表会”です。特に5歳児の合奏は圧巻で、会場のお父さんお母さんを魅了しています。

坂崎園長は「園児たちに対して、特別な指導はしていないし、練習時間もそこまで多くはないです。苦勞するのは、イメージの共有ですね。ただ、元々の

力・トライする気持ちがあるからこそ、人を感動させられる素晴らしい演奏が出来るのだと思います」と話してくれました。

「10周年を迎え、次のステップへ」

10周年を迎えて、坂崎園長は「平成24年からの10年間は、山あり谷ありでしたが、無事に10周年を迎えることができました。それは、保護者・村民・村・園の職員のお陰だと思っています。今の中学3年生が、1期生ですからね。とても感慨深いです。こども園として、今後は小・中学校との連携をこれまで以上に取っていきたいと思っています。11年目からは、園としても新たな取組を行う予定です」と今後についても話してくれました。

進化を続け常に新しい風を吹かせる“こども園ひがしどおり”は、10周年という節目を迎え、2月末に記念式典を行います。その様子は、『広報ひがしどおり4月号』に掲載いたします。